

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600013		
法人名	社会福祉法人双友会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護(短期)(介護予防)つつじのさと		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字大津字前田1187-1		
自己評価作成日	令和元年11月11日	評価結果市町村受理日	令和元年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokennsaku.jp/43/inndex.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和元年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

つつじのさとでは利用者の居心地の良い環境を提供できることをモットーに支援できる環境に配慮しています。外出支援では四季の季節感を肌で感じられるようにしています。外食支援では利用者の食べたいものを食べに行けるように支援してます。家族等と過せる環境を大切に、面会、外出、外泊時等本人の状況により家族からの要望等もある程度自由にできる環境を提供しているところです。在宅生活とかわらず自由な生活ができるように支援しています。毎月10日と25日には、1階小規模多機能大津センターホームと合同食事を開き交流しています。また、ここ数年、地域密着型施設の事業所としてよんなっせカフェへ、GHつつじさと協力行い地域の方へカフェを開催してます。地域交流スペースを活用できる場として利用していただけるようにしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔ながらの街並みの中、モダンな建物の2階にあるホームは、その時々入居者の年齢や介護度などに応じて、居心地よく安心して過ごせる空間作りに努めている。外部評価についても前回の結果を踏まえ、毎回真摯に取り組んでおり、工夫や努力が表れているホームである。人員配置など困難な面もある中、職員は地域商店からの食材を生かした手作りの食事提供や、ホーム内の環境整備に取り組み、生き生きと業務にあたる姿は家族にとっても訪れやすく、信頼につながっている。同時に開所した1階の小規模多機能型事業所とは、合同食事会による交流や避難訓練、地域交流スペースでのカフェ開催など協力体制が継続されており、今後はさらに、地域交流スペースの活用にも尽力していきたいとしている。食事中、「この料理な毎回、工夫してとても美味しかとですよ!」「この職員さんはおもしろくて優しかですもん!」など途切れることなく話をされる親心のような入居者の表情に、一つ屋根の下の日常をあらためて感じるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の ☐ 2. 利用者の2/3くらいの ☐ 3. 利用者の1/3くらいの ☐ 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と ☐ 2. 家族の2/3くらいと ☐ 3. 家族の1/3くらいと ☐ 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある ☐ 2. 数日に1回程度ある ☐ 3. たまにある ☐ 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように ☐ 2. 数日に1回程度 ☐ 3. たまに ☐ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている ☐ 2. 少しずつ増えている ☐ 3. あまり増えていない ☐ 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が ☐ 2. 職員の2/3くらいが ☐ 3. 職員の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が ☐ 2. 家族等の2/3くらいが ☐ 3. 家族等の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで毎回理念に立ち返るよう に心がけています。家族のような関わりで 尊厳を大切に支援を行っています。	開設時からの理念をケアの指針として月の会 議で読み上げ、理念を通して日々のケアを振 り返りながら、共有する時間をもっている。3項目 の理念には、入居者が自然体で生活すること や家族のようなかかわりの中で地域との繋がり の重要性を謳っている。	長年継続している理念は変更する必要 性は無いが、表現が適切か否かな ど、見直しの機会を持つことも必要と 思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けら れるよう、事業所自体が地域の一員として日 常的に交流している	毎月のカフェを開いています。毎回カフェ開 催時に次回の案内をお知らせしています。 初よりや地域の行事、清掃活動等できる範 囲で参加協力するようにしています。	1階に小規模多機能事業所や地域交流ス ペース“よんなっせ”、2階にはグループホームつ つじのさと及び多目的ホールを有しており、地域 密着型事業所としてこれらを活用して地域から 足を運んでもらいながら、人々と交流を続けて いる。商店街での祭り見学や、地域福祉推進を 目的にした福祉祭りに職員が参加協力し、地 域の清掃活動以外にも、独自にゴミ拾いを行 い、地域の一員として活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々 に向けて活かしている	認知症の病態また情報提供書等も把握しな がら日々のケアに活かせるようにしていま す。夜間はできるだけ休まれるような配慮を 行うことを考えています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や 話し合いを行い、そこでの意見をサービス向 上に活かしている	地域、家族、役場等交流する機会で、2ヶ月 に一回の良い意見交換の場になるようにし ているところです。様々な立場から報告や意 見交換しており、事業所の行事や取り組み 等もお伝えしています。	2ヶ月毎の定期開催によりホームの現状を発信 し、行政、地域・家族の代表者の意見を運営に 反映させている。小規模多機能事業所との合 同会議となっており、行政から震災後の新庁舎 建設についての説明や、包括主催の認知症カ フェと、当法人のよんなっせカフェの合同開催 への打診などがあがっている。様々な地域情 報は外出の機会につながったり、防災対策へ の取組状況や、今後について地域代表者から 説明が行われている。	会議の中でヒヤリハットや事故につい て報告が行われており、検討会で参 加者からのあがった事故に至った経 緯などについて説明が行われてい る。ホームの透明性を図り一つひ つの課題をクリアにしていけることが最優 先と捉えている。毎回でなくとも会議 前にホーム内を見てもらうことで、会 議内容に具体性が増すものと思われ る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新申請等、福祉祭り等の行事等、介護相談員の受け入れ等調整他また家族の方や地域の方等からの相談調整等で地域包括支援へつなげ連携するようにしています。	ホームと役所とは徒歩圏内にあり、管理者は書類提出や行事案内を直接届け、行政や包括主催の行事には出来る限り職員が出向き、友好な関係を継続している。階下にある多機能事業所の情報から、昨年11月より介護相談員が来所され、他者を介して入居者の声を聞くことで更なるケアの充実が期待されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解をスタッフ間で共有し、自由に行動して頂くことを念頭においています。また、日中はリビング、部屋、ベランダへの出入りは、自由に行き来できるような環境です。夜間は防犯等の面で玄関等、施錠しています。	法人の全体研修やホーム内の勉強会、外部研修等に参加し、身体拘束や虐待について共通の認識を持ってケアにあたっている。入居者が自然体で暮らせる環境作りを心がけている。ホームは、緊急時以外入居者の行動の制限をしておらず、そのことが事故に直結しないよう、ホーム全体で注意喚起を促している。	身体拘束の研修については、運営推進会議の中で紹介し、ホームの取組みを発信する事が必要と思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で身体拘束においての基本的な部分で正しい知識を学び、「身体拘束に必要なケアの在り方」にて勉強会を行いました。外部研修へも参加、今後活かせるようにしていこうと思っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	基本的な法定後見制度のことの理解、また日常生活自立支援事業においては、ホーム利用者の方も利用されており支援行っており、制度等の活用、必要性を感じているところです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約書、重要事項等は説明行います。本人、家族の不安や要望をもとに疑問点を尋ね、対応しながら信頼関係が築けるように心がけています。退去される場合は様々な状況があります。その都度対応していますが、困難なケースでは、家族の納得するという部分では難しいこともあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議へ参加して頂いたの家族においては、利用されている声を聞かせて頂いています。参加依頼がの調整が難しくなっています。遠方にいる家族も多く会議に出席して頂けることも少なくなっています。	家族の面会時や行事で来所される際には、入居者の近況を報告しながら、忌憚のない意見をもらうよう投げかけている。出された意見には早急に対処し、家族への説明をおこなっている。入居者の要望は日々のかかわりの中で聞き取り、支援に反映する様努めている。中には、洗濯を拒否される理由が、生地が傷むことにあった例など、しっかりと自身の思いを伝える方もおられる。	玄関に意見箱が設置されているものの、利用されることは無いようである。今後家族に聞いてみたい内容などを検討し、アンケートを実施することも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議にて職員の意見等を聞いたり確認するようにしています。また会議でもその立場からの意見も言える機会もあります。意見を出しやすいような雰囲気作りを大切にしています。	職員は普段から意見を出し合い、必要な事案は毎月のケア会議で話し合い、検討している。管理者は休憩時間や希望休への対応をはじめ、働きやすい職場環境を目指し、個別に話を聞く機会を設けている。人間的に決してゆとりのある体制ではないが、ホーム内は物品の配置や掃除が行き届き、入居者にとって居心地の良い環境が提供されており、日頃の職員の努力によるものと思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、日々スタッフの働きやすい環境を考え反映できるように心がけています。休憩もしっかりとってもらい仕事しやすい環境をつくり、向上心をもって頂けるよう心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングではGHの業務、決め事等方向性をだすような位置づけで考えています。他全体会議や勉強会、日々の申し送り等も活用しています。外部研修への参加は難しいのが現状です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ入会しており色々と相談等もさせて頂いています。年2回の研修会も行っています。同業者との関わり持てる機会を必要に感じているところです。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族他関係者等との情報交換はもとより、必要なサービスまた支援の方法等を模索するようにしています。まずは笑顔での関わりを行うことが何よりも大切に考えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方と気持ちよい関係を心がけるように常に意識しています。本人、家族を少しでもサポートできるようにまた遠方にいる家族へ支援にも配慮行い、帰省される際等も安心してできるように配慮するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族への情報も大切である、また、サービスを提供している中で色々見えてくる部分も多く、排泄等でも排泄パターン等把握することで、できるだけリハパン、パット等の利用もしなくて過せるような配慮も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	さりげなくケア、利用者が何か動きがあれば、まず見守り、自由に動ける支援を大切にしています。見守り支援を基本に必要な時だけは援助し自立を促がすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族との関係を大切に考えています。面会時等は家族との時間を大切にしており、家族方へ生活状況を伝えるようにしています。外泊時にはより詳しい情報を記載して渡すようにしています。必要により協力する意識を持つようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様との馴染みの方や住み慣れた場所等車で行ったり、会話をしたり関わる時間を大切にしています。ゆっくり部屋で話ができるようにそれとなくサポートするようにしています。美味しいお茶等も添えて気持ちよく過して頂いてます。	面会は多く、遠方の家族も定期的にホームを訪れ、入居者とのひと時を過ごされている。毎週末自宅での泊りを楽しみにされる方や、盆・正月の帰宅、馴染みの美容室への外出等家族の協力が得られている。小規模多機能事業所との合同食事会も定期的に開催されており、互いの事業所を行き来しながら、馴染みの関係性が出来ている。職員は入居者の書や歌など趣味や特技を生かしながら、力を発揮できる出番を工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様も様々です、皆と過したい方、一人で過したい方等またその時の状況でも変化見られます。その都度支援していますが、お互いがいることで安心できる関係、環境が築けるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退去時等、しっかりとその後の生活する場を提供できるように支援をしています。方向性を出される際少しでも話を行っていきながら関わり支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、花が好きな利用者、食べ物で美味しい肉が食べたい利用者、家に帰ってゆっくりしたい利用者等それぞれ思いがあります。美味しく食事をしたい、そのために必要な準備をできるように支援している方等利用者本意を大切にしています。	職員は日頃の会話から入居者の思いを聞き取っている。時には選択肢を投げかけ意思を確認したり、家族にこれまでの暮らしぶりを尋ねながら、入居者のこだわりや思いを引き出しプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活してきた環境を大切にしながら、ある程度のわがままも聞いて支援してと思っています。そこに家族、兄妹や知人等との生活歴も大変重要なものが見て取れることがあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方々で過し方も違います。食事、おやつ等多少の日課はありますが、基本的には、自由に部屋に帰り休んだり、テレビを見たりとまた朝方少しゆっくりしたい方等様々です。その人らしく過せるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が居心地良く過せること環境は大切に思っています。ミーティングや日々の状況や連絡等を皆で考えるようにしています。ケアプランに反映できるようにしています。	ケアミーティングにあがった職員意見や日々の入居者の状態、家族の意向など総合的に判断しながらプランを立案している。3ヶ月ないし半年を目途に評価をおこない、現状と照らしながら内容の継続や変更を見極めている。「自分の事はなるべく自分でしたい」と希望する入居者へ、日常生活において付き添い支援の状況を把握して、出来ることを見守り自信に繋がる内容とし、外出時の車いす利用からホーム内は歩行器移動で対応するなど個別に必要なプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の状態やバイタル等、また表情、行動等色々なところから観察しています。夜間の状態から申し送り、昼間の状態等常に連携、必要に応じて記録、申し送り等記載状態把握するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の思い等において配慮するところでいます。帰宅願望や外泊、買い物、外食等できるだけ、その方々のニーズに応える様に支援するようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段から地域の方とのつながりを大切にしています。馴染みの方からの依頼があり、正月明けのどんどこや支援等も行いました。また、仲間との交流する機会を作っていたき、ホームで童謡をして頂きました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の状態、または本人からの訴え、要望等さまざまあります、できるだけ、その都度病院受診できるように支援しています。何かあればスタッフに伝えられる、何でも言えて、安心できる環境作りを大切にしています。	本人・家族の希望のもと協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回、または必要に応じて受診を支援しており、緊急時には地域の他の医療機関の受診もおこなわれている。家族とは健康状態や受診結果など小まめな連携を図っており、相談事にも応じながら適切な医療支援につなげている。口腔ケアについては、食後の歯磨きや夜間の義歯管理などに努め、必要に応じ歯科受診がおこなわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の日常の状態を把握し変化がある時は速やかに協力医療機関また併設の事業所の看護師に報告、受診や看護を受けるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが付添い受診支援を行い、情報提供を行っています。入院中にも随時、医療機関との連絡調整またカンファレンスに参加することもあります。退院の目安が出てきた場合などは状態観察に出向いて、主治医と調整、病院との調整支援等行いながら対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態悪化等でホームでの対応に支障が出てきた場合は家族、主治医と連絡調整しています。利用者本人の状態をできる限り支援を行い、その後の方向性を話し合いながら、サポートさせて頂いています。	継続した医療支援の必要性や、本人の状態に変化が生じた場合、家族と今後の方向性などについて話し合う機会をもっている。医療機関や特養への転院など、家族の要望も聞きながら本人の状態に応じた支援ができるようにしている。管理者は今後も、日ごろからホームにできる支援に取り組みたいとしている。	退去の目安は契約時の書類の中に記されているが、今後は家族に不安のないよう、口頭での説明の機会をもつことも必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段の状況を観察しているスタッフの観察している中での早期に異常に気づき、状況により医療機関等へつなげる支援体制を築けるようにしています。オンコール体制、日常的な情報、既往歴等ミーティング等では情報共有するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震等の災害を教訓に年に2回避難訓練を行い、1階、2階、昼間、夜間等様々な状況を設定し訓練するようにしています。地域の方、区長さん等にもお互いで協力できるような関係性を大切にしています。	年2回避難訓練を計画し、今年度は5月と11月に実施している。訓練は1階の小規模多機能事業所と連携を図り、昼・夜など様々な想定のもと行っている。区長をはじめ地域の方との協力関係ができていることは心強く、運営推進会議でも自然災害を含めて議題にあげている。	今後も火災は日ごろの安全チェックをはじめ、火を出さないことを一番に取り組まれることを期待したい。また、昨今の自然災害のもたらす被害は予想を超えるものであり、今後もあらゆる災害を想定した対応策を検討していけることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳に配慮した関わりを行うように意識して接しています。先輩である利用者様へ支援する姿勢として、笑顔で声かけする表情等に気を配りながら関わりを持つようにしています。	入居者は人生の先輩であり、職員自身が大切な環境として、言葉使いをはじめ笑顔での対応など職員間で共有を図っている入室の際は、在室の有無にかかわらずノックを徹底している。また、身だしなみやおしゃれへの関心を、家族の協力を得ながら継続して取り組んでいる。	呼称については苗字にさん付けを基本としているが、徹底されていない場面も見られるようである。呼称について今後は、週目標などに掲げていくことも有効かと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族との絆、食べ物に対する強いこだわり等利用者様においても様々要望また思い等見受けられています。家族への協力、スタッフのサポートを充実させ支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様によって安全を優先すがゆえにはどうしても支援する時間が長くなる方も居ます。バランスを考えながら、時間を見つけては、利用者と同じ向き合いながら話をするようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お洒落に気を配る利用者の思いは大変素晴らしい協力できるようにしています。化粧品、クリーム等はいつでも買い物等必要時は伝えて頂くよう、また歯が欠損している見た目等にも配慮しながら、歯科受診へ等次へつながらるように支援しサポートできるようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食することへの楽しみは大切に考えており、こだわりある支援を心がけています。美味しく食事ができるように環境面に配慮しながら、食後には、皆さん食器を重ねたり、寄せたり等されます。また、テーブルやクロスを拭いて頂き役割ある生活につながっていると思います。	ホームは入居者が食事を楽しんでもらえるよう、メニューや雰囲気などにも配慮し支援している。献立は季節感を取り入れながら、家庭的なものから行事食など工夫しており、食材も地域商店や精肉、鮮魚など配達や直接購入に向いている。入居者が調理に関わる機会は殆どないが、テーブル拭きや食器を重ねたり、味の評価を受けるなど、できることで食への関わりを支援している。昼食は持参した弁当や職員が1名検食を兼ねて同じものを摂っており、音楽を聴きながら会話の弾む食事時間であった。	入居者の「ここの食事は本当に美味しいかです！」「私も料理好きですよ！」など発せられる一言から日常を窺うことができた。食材の切り方によっては、箸で挟みにくいものもあり、今後は検食者を中心に、味や量に加え、切り方などにも気をつけ、食事の見守りを行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームでの食事は基本的に手作りで、安心して食することができることを第一に考えています。利用者の既往等にも配慮しながら、食事、水分量の確認は毎日行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをきちんと行い、口の中を清潔に保てるように支援しています。口腔内の清潔保持は大変重要です、食後のケアは必ず行うようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況を把握しながら、リハパン、パットを調整できるようにしています。排泄パターンや利用者に応じてさりげなくスムーズ支援を行っています。汚物等の処理や臭い等、周りに配慮を行い支援しています。	個々のパターンに応じ、リハビリパンツやパットの併用、昼夜の使い分けを検討し、尊厳にも配慮した排泄を支援している。入居者の中には布パンツのみやパットを併用して過ごされる方もおられる。日中は基本的にトイレでの排泄を支援しているが、夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられる。居室内にトイレが設けられた部屋や共同トイレのなど、いつでも気持ちよく使用できるよう清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食物繊維、ヨーグルト等基本的に摂取して行い、歩ける方は歩いたり等心がけて支援しています。それでも排便コントロールが難しいことも多く、便秘薬での調整もして対応しているところです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	つつじの湯♨として利用者様には、気持ちよく入浴してもらえるように心がけているところです。入浴を好まれない方もいます、また支援すること自体難しい方も居ます。その時の状況で臨機応変に対応しながら気持ちよく入浴支援につなげられるようにしています。	入浴は週3回、同性介助により基本的に午後から支援しているが、状況に応じ午前中も行っている。拒否がある方には、職員を交代したり誘導を工夫しながら、間があかないようにしている。シャワー浴が中心の場合は、湯冷めしないよう特に脱衣所や浴室の温度に配慮している。湯上りの水分補給も入浴支援の一つと捉え、お茶を中心に提供している。	今後も入居者一人ひとりに応じた入浴の楽しみを把握し、つつじの湯を支援いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的にいつでも自由に過せるような環境を大切にしています。夜間良く眠れなかった方等は昼間休ん頂き調整支援行うこともあります。自室にテレビ等設置している方は、見たいテレビをゆっくり見ていただいたりしています。昼食後昼寝を寝具調整も行います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方各々症状に応じた薬を服薬支援しています。処方された薬の日時名前等のセット間違いや飲み忘れ等が内容にチェック体制を整えています。事故が起きないように支援をするもそれでも起きてしまった場合等は再発防止策を皆で検討し皆で周知また報告することようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常のお手伝い、洗濯物たたみや掃除、食事の味見等、自分も必要とされていることを感じてもらえるような支援を心がけています。歌、習字、外食、ドライブ等の趣味嗜好もレク等に取り入れて楽しんで頂ける様に支援している状況です。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅があるが家庭の事情でホームで暮らしている方へは時々スタッフと自宅に行き確認されることで安心して頂いたり、食べのこだわりが強い方で美味しいお肉を食べたいと要望があっていた方には有名なステーキ店へ支援したりと要望がかなうように様々な調整を行いながらサポートしています。	近隣の散歩など日常的な外出の機会は少ないが、自宅の様子を見に行ったり、外食など個々の出された希望の外出を支援している。また、地域のイベントや初詣をはじめ、季節の外出も気候や体調に配慮しながら出かけている。以前ホーム前の旧街道で行われていたイベントの一つは、開催場所が変わったことで参加できなかったようである。家族の協力としては盆・正月の帰省や外泊の他、定期的に自宅へ外泊し、家族とのひと時を過ごされる方もおられる。	今後も地域や家族の協力を得ながら、入居者が戸外に出る機会を支援していきたい。また、暑さや寒さ、感染症など外出を控える時期もあるが、日光浴や室内歩行など引き続き、外出の気分を味わえるような取組を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は皆様大変大切に考えているところがあります。基本的にはホームで管理していますがそれでも、本人お金を持っておきたい、いつも財布の中身を確認して安心したい等あるので、声かけ見守りしながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	急に思い出したように家族に電話してほしいとのことを言われる方もいて、状況観察しながら対応するように支援しています。また近況を家族等に伝えて来所依頼することもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活スペースであるリビングは、見通しの良い空間に配慮しながら、移動等においても安全に移動できるように環境面でも配慮しています。テレビを見る際朝方の日差しでテレビが見にくい様な場面ではカーテンでの調整、また音、換気、寒さ、暑さ等常に快適に過ごせるように微調整しながら支援しているところです。	2階のホーム玄関や共有スペースは、華美にならない飾りつけや草花(家族や職員による持ち込み)を生け、季節を感じてもらえるよう配慮している。また、使用済みの段ボールを掲示板として活用し、入居者の書の作品を掲示するなど、職員の工夫やアイデアが見られる。ホーム内は日ごろから職員による掃除が徹底されているが、年2回業者による床掃除もおこなわれている。明るいいリビング食堂は季節や入居者に応じて採光を調整しており、テーブルの配置も状況に応じて検討されている。	入居者の作品の掲示は本人にとっても励みであり、家族や来訪者にとっても楽しみと思われる。継続した取組に期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの環境では、皆と過ごせて安心できる環境は大変良いと感じていますが、やはり、時には自室でゆっくりしたい等の方も見られます。馴染みの環境をサポートしながら、自室での時間も支援してゆっくりしやすい環境作りを提供できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心できる環境は本人や家族と確認しながらまた経過観察しながら築いていくようにしています。利用者の方が馴染みのものはある程度自由に持ち込んでも構わないように調整しており、居心地の良い環境に一役買っていると思います。	安心して過ごせる居室となるよう、馴染みの品の必要性和、持ち込みにくい品でもまずは相談してほしい旨を伝え、他の部屋も了解のもと参考までに紹介している。また、入居後も本人・家族と相談しながら環境の整備を行っている。衣類や寝具はホームが中心に預かり、衣替えを支援しているが、衣類に関しては、季節ごとに入れ替えをされる家族もおられるようである。	広めの居室は掃除も行き届き、車いす利用者にも安全に使用できる環境である。居室には馴染みの品や思い出の写真、本人の好みのカレンダーなどが持ち込まれた部屋も見られた。特にカレンダーは、好みのもの(花・動物・車など)があれば本人にとって居心地の良さにつながっていくと思われる。家族の協力も得ながら取り組まれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境的な部分で「トイレ」や「便所」等その方に伝わりやすい促がしを行っています。戸は引き戸で状況に応じて声かけ支援を行って対応しています。掲示、表札等も取り入れながら状況に応じた支援を行うようにしています。		